

平成27事業年度評価

添付資料

独立行政法人海技教育機構

添付資料一覧

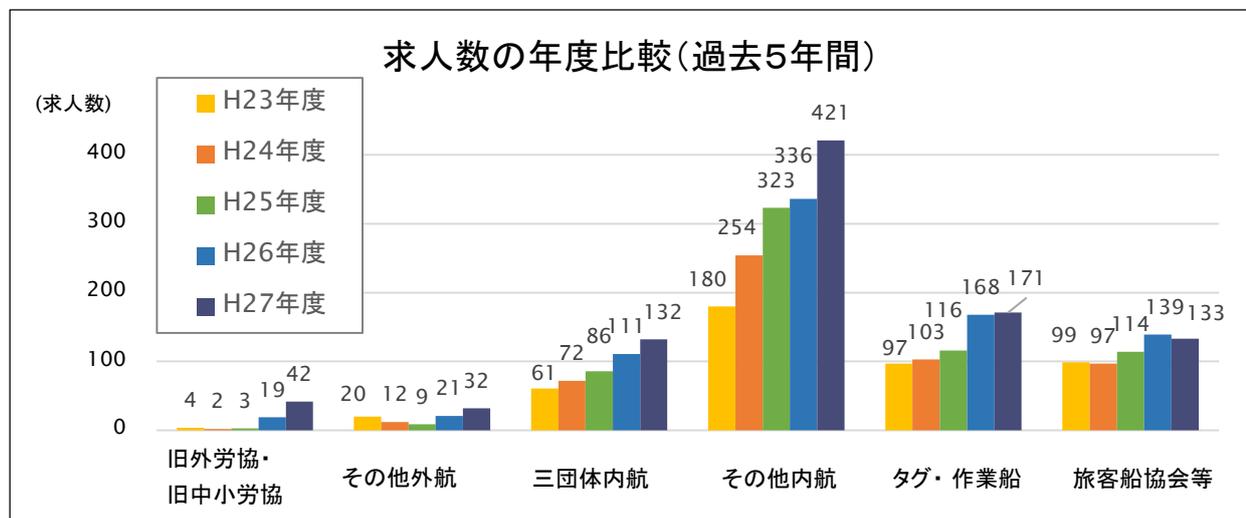
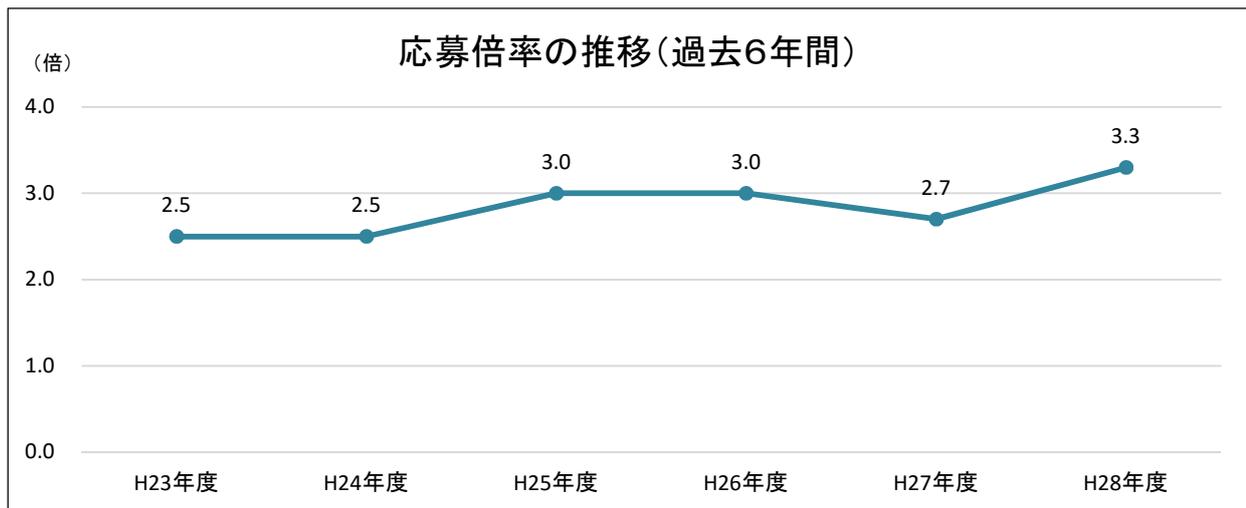
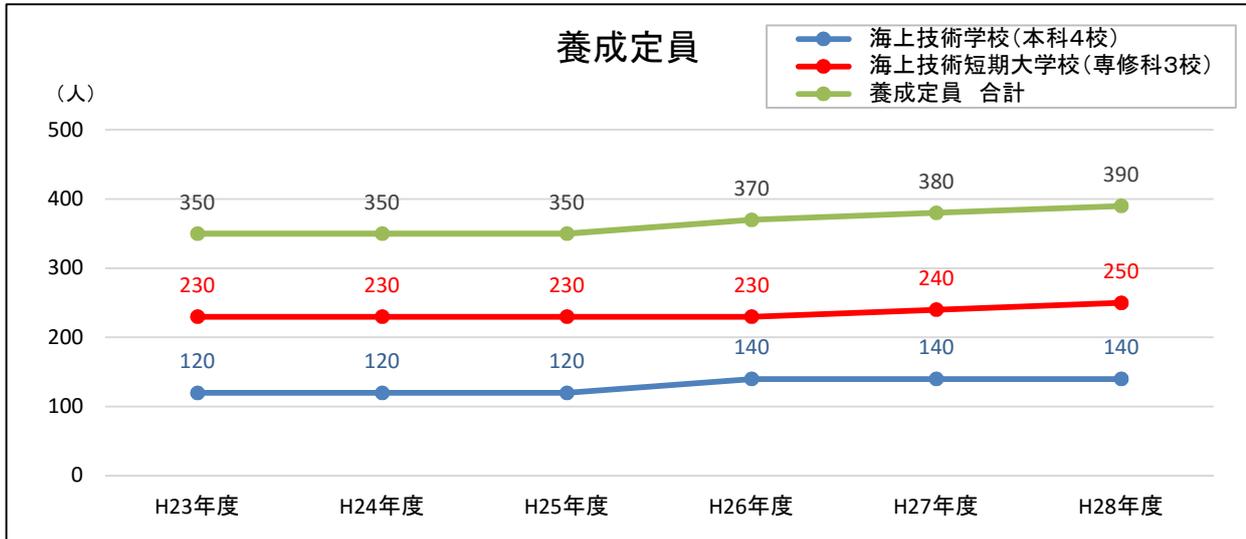
- 添付資料 1 : 養成定員の見直し
- 添付資料 2 : 海技士国家試験の合格実績
- 添付資料 3 : 寮生活アンケートの調査の結果
- 添付資料 4 : 保護者アンケートの調査の結果
- 添付資料 5 : 海事関連企業等への就職率
- 添付資料 6 : 就職に関する取組
- 添付資料 7 : 社船実習の実施状況
- 添付資料 8 : 各学校の研修の取組
- 添付資料 9 : 各学校の募集活動に関する取組
- 添付資料10 : 入学応募者数・応募倍率の推移
- 添付資料11 : 研究項目一覧
- 添付資料12 : 研究成果発表一覧
- 添付資料13 : 人事交流の実績

養成定員の見直し

○内航業界就職者の5割を、海技教育機構が輩出

○地域事情及び業界ニーズを踏まえ、効率的な船員養成が可能となるよう検討

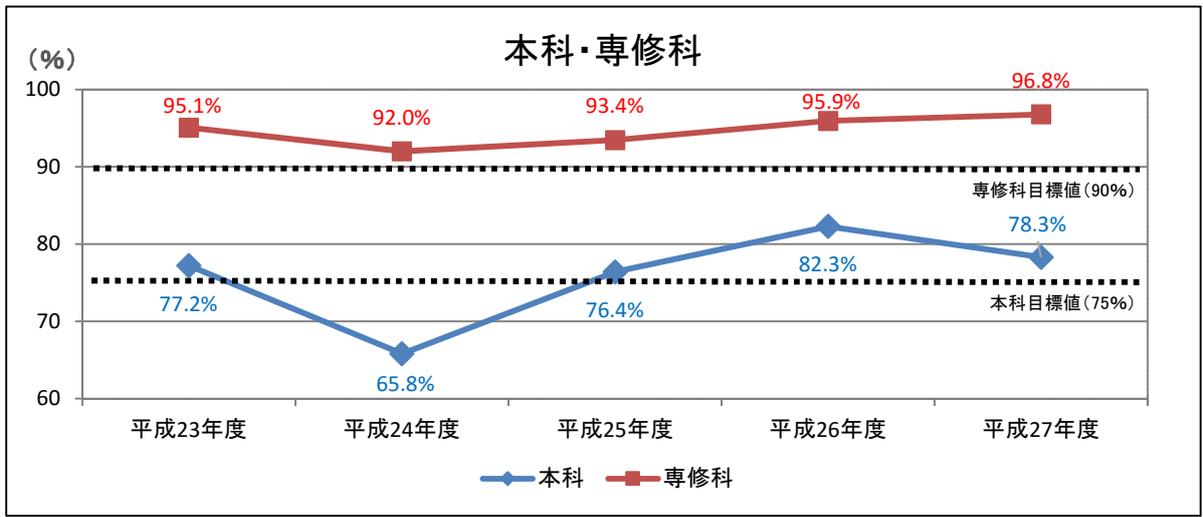
「船員（海技者）の確保・育成に関する検討会報告」（平成24年3月）



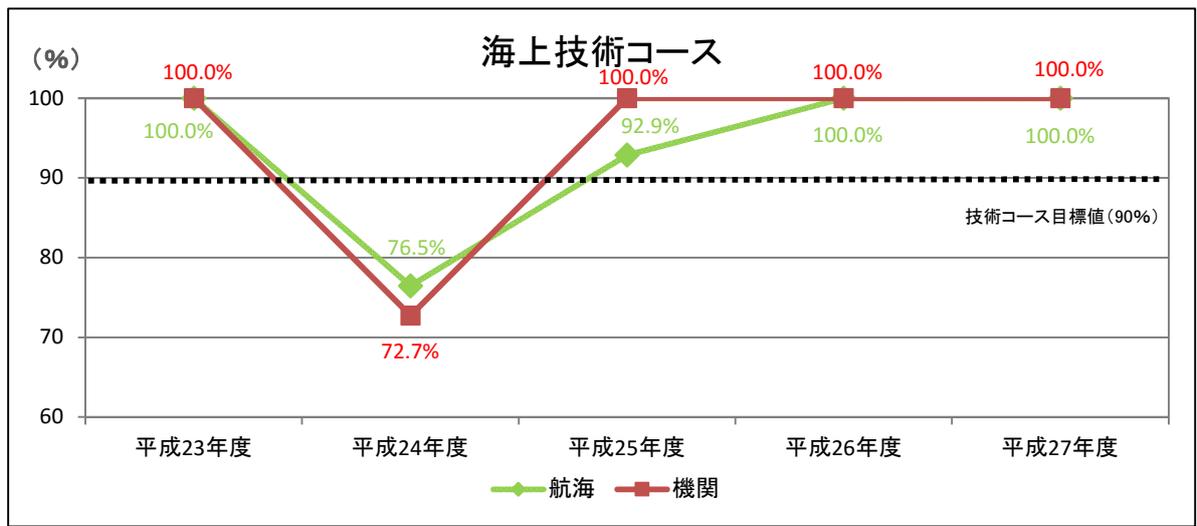
海技士国家試験の合格実績

○合格率

四級海技士(航海・機関両方の合格率)



三級海技士(航海又は機関の合格率)



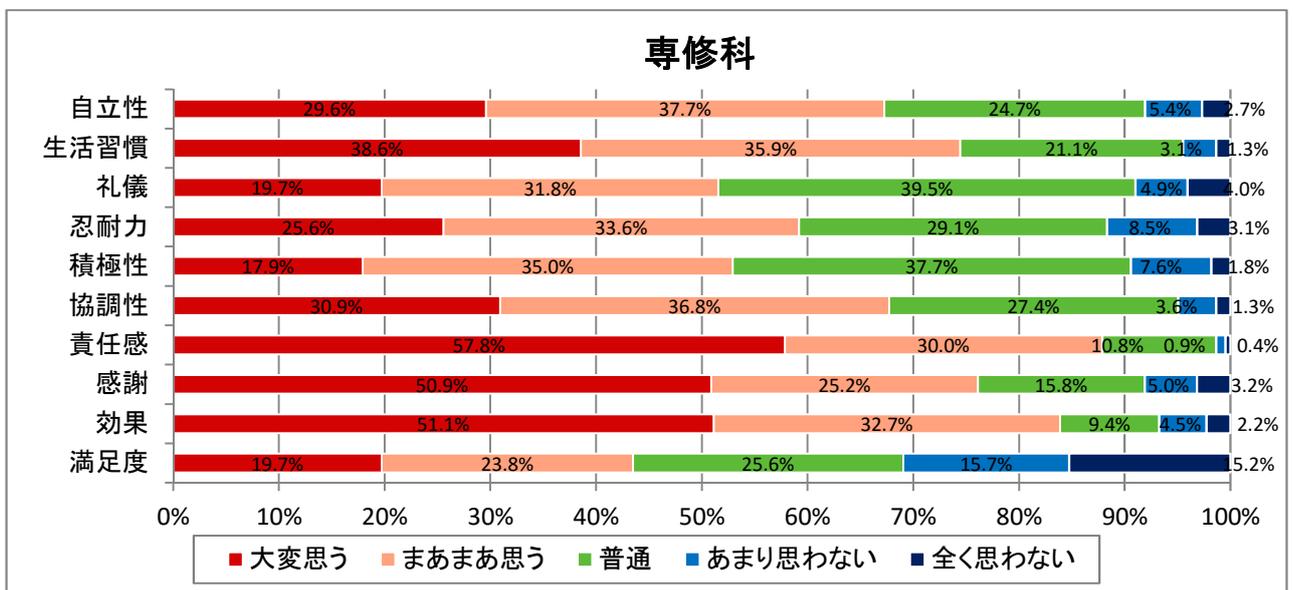
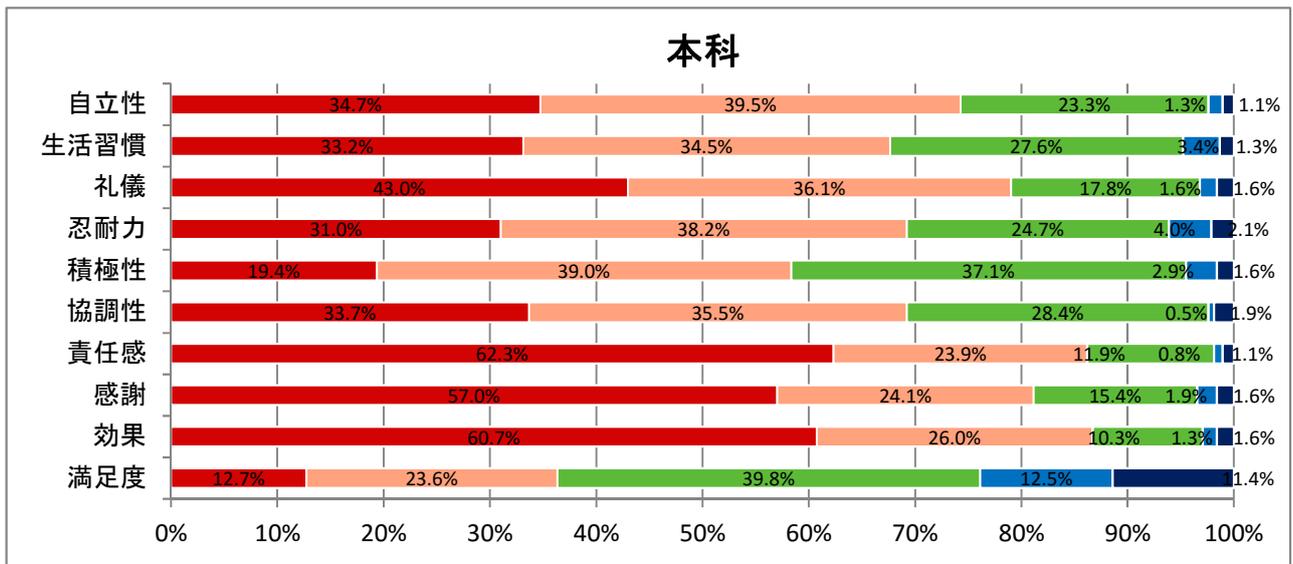
寮生活アンケートの調査の結果

1. 回答率： 99% (本科・専修科：600人/604人)

2. 設問

- 自立性：寮で生活するようになって、何でも自分でできるようになりましたか。
 生活習慣：寮で生活するようになって、規則正しい生活をするようになりましたか。
 礼儀：寮で生活するようになって、礼儀正しくなりましたか。
 忍耐力：寮で生活するようになって、がまん強くなったと思いますか。
 積極性：寮では、当番や係の仕事を進んでやっていますか。
 協調性：寮では、他の生徒(学生)と協力し、仲良くするようにしていますか。
 責任感：寮では、自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかると思いますか。
 感謝：寮で生活するようになって、家族のありがたさが分かるようになりましたか。
 効果：寮での生活の経験は、自分の将来に役に立つと思いますか。
 満足度：総合的に見て、寮での生活に満足していますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

本科、専修科ともに、「責任感:自分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかる」
「効果:寮生活の経験が将来役に立つ」など
寮生活で培われた責任感と団体生活の有益性を
生徒・学生自らが十分に感じとっている。
また、寮生活の満足度では
「大変思う」、「まあまあ思う」
との割合が5割以下となるなど、寮生活の満足度は低いという結果である。

5. 寮生活に対する主な回答(自由回答)

①良い点

・ マナーや規律が身につく、規則正しい生活ができる。
・ 充実した学校生活を送ることができる。
・ みんなと楽しく過ごしている。

②悪い点

・ 施設・設備が不満(古い、汚い、うるさい)。
・ 食事が美味しくない。

③改善して欲しいこと

日課関係	門限、風呂、消灯時間を延長してほしい。
給食関係	食事(メニューなど)を改善してほしい。
設備関係	設備(電化製品、Wi-Fi等)の充実及び改修をしてほしい。

④その他

・ 自習室を増やしてほしい。
・ 寮生活で友達や親の大切さが分かった。

6. アンケートに基づく改善

・ 意見箱に投書されている要望については、早急に職員会議等を開き対応の可否について検討し、その結果を出来るだけ早く全学生に公表した。
・ 入学時から挨拶励行の継続的な指導を続けているが、入学時に比べしっかりと挨拶ができる学生が多くなった。
・ Wi-Fiの設置や便所污水管の改修工事等を順次行っている。

保護者アンケートの調査の結果

1. 回答率： 72.5% (311人/429人)

2. 設問

環境整備： 学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。

生徒の雰囲気： 生徒は挨拶ができ、明るく健全な雰囲気が感じられますか。

教職員の対応： 教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。

教科指導： 教員は、授業に熱心に取り組み、分かりやすい授業をしていると感じますか。

生徒指導： 学校は、生徒指導に熱心に取り組み、その成果が表れていると感じますか。

進路指導： 就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いますか。

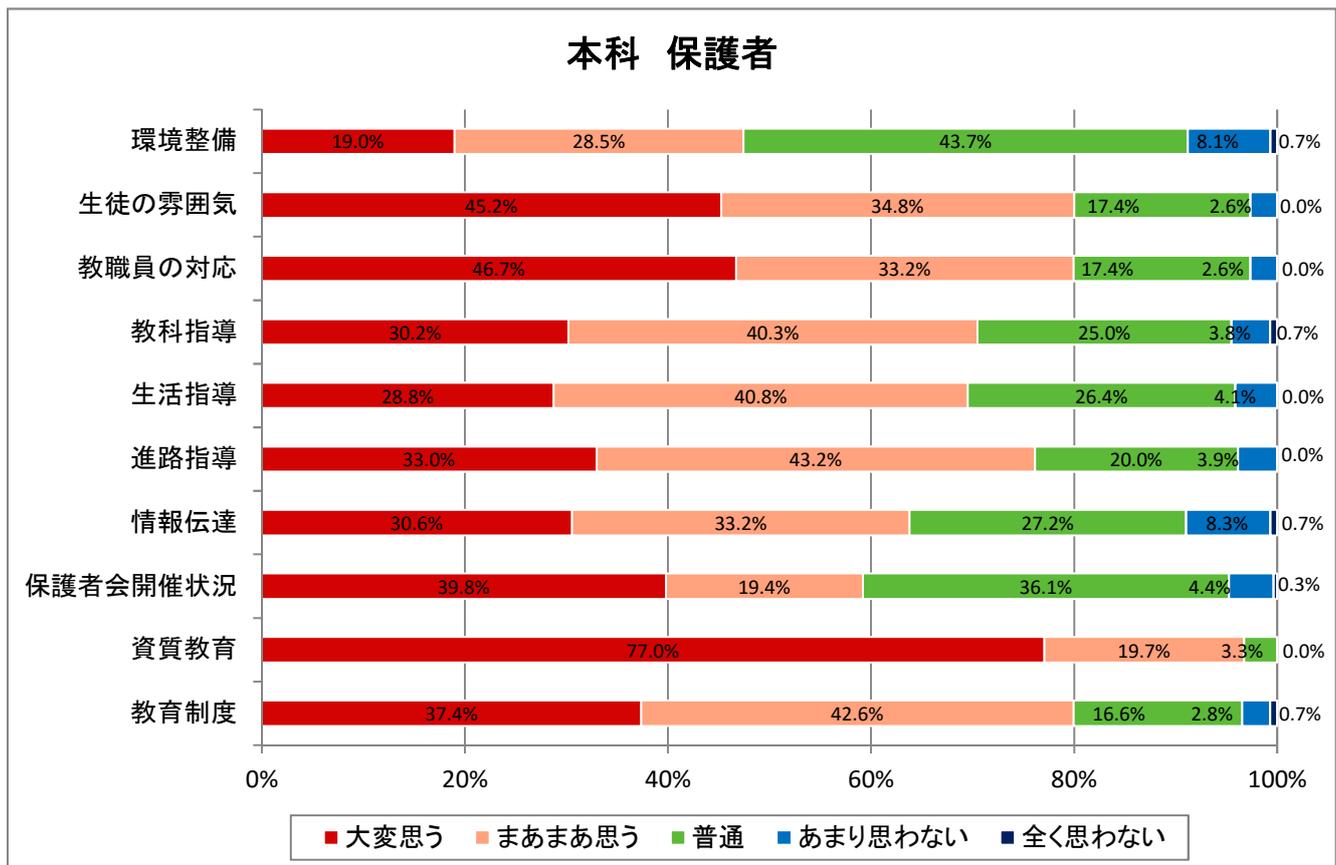
情報伝達： 学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いますか。

保護者会開催状況： 保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。

資質教育： 寮生活や実習実技など在学习中の経験が、社会に出ていく上で役に立つと思いますか。

教育制度： 学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると思いますか。

3. 回答結果(グラフ)



4. 回答結果について

「生徒の雰囲気」「教職員の対応」「資質教育」などの項目については、好評価とする回答が約8割を占める一方で、「環境整備」についての評価は低い。引き続き学校内の清掃や整備等の改善を進めていく。

5. 学校に対する意見

①入学後の子どもの変化

・ 自主性が出てきた。
・ 自分から挨拶をしたり、手伝ったりするようになりました。
・ 家族兄弟に対して優しくなった。

②子どもに期待していることや改善して欲しいこと

・ 整理整頓をして欲しい。
・ しっかり学び、学習に集中してほしい。
・ きちんと卒業し就職して欲しい。

③学校に期待していることや改善して欲しいこと

・ 就職情報がもっとあると良い。
・ 給食内容を改善して欲しい。
・ もう少し清掃をしっかりして欲しい。

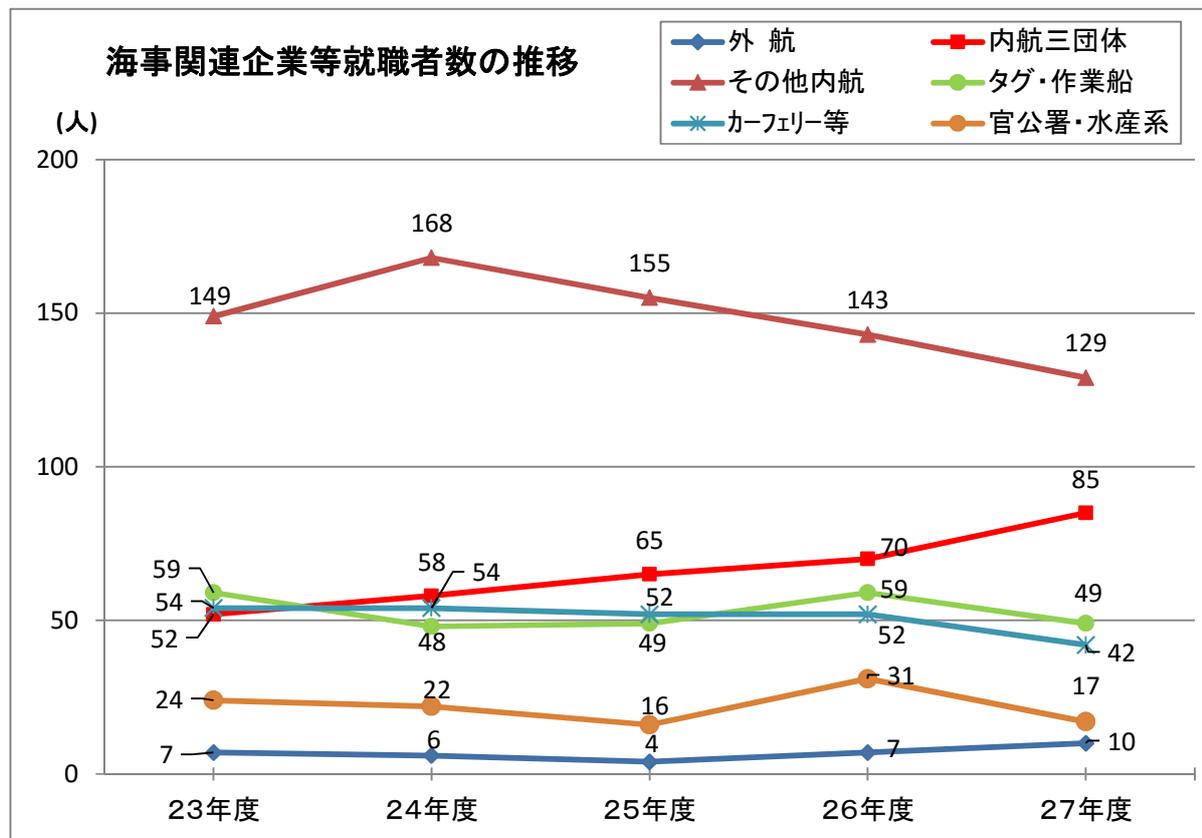
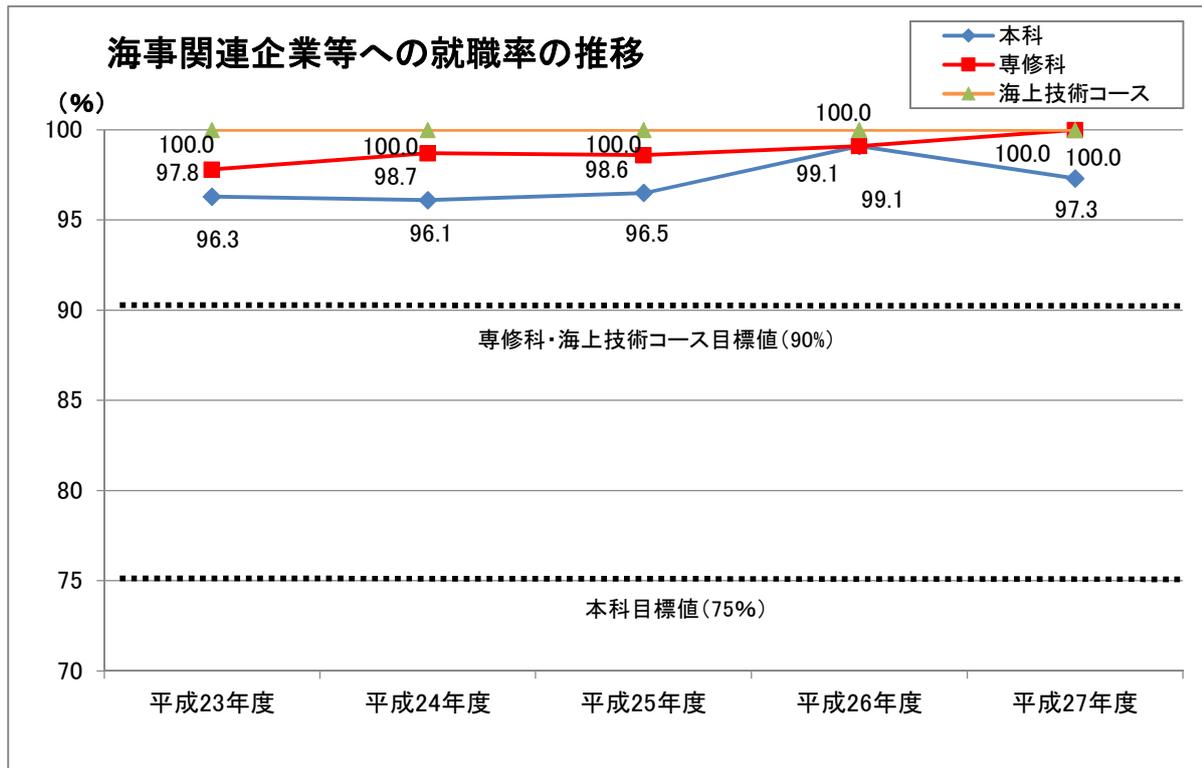
④その他

・ 日々の指導に感謝しています。
・ ホームページやフェイスブックの更新をまめにしてほしい。

6. アンケートに基づく改善

・ ホームページの更新回数増加や学級通信の発送回数増加した。
・ 検食記録簿や給食会議により、メニューの改善を図った。
・ 古くなった設備の新替、修理等を行った。

海事関連企業等への就職率



就職に関する取組

○就職説明会等への学生の参加・・・1,682名

開催名	主催	参加人数
海技者セミナー	地方運輸局	724
九州運輸局出前講座	九州運輸局	83
全国内航タンカー海運組合講演会	全国内航タンカー海運組合	271
全国内航タンカー海運組合懇談会		114
就職説明会		81
日本内航海運連合会講演会	海技教育財団	95
内航船社講演会		83
内航講師による講演		108
日本船主協会講演会	日本船主協会	65
中部地方船員対策連絡協議会懇談会	中部地方船員対策連絡協議会	28
海運業務講演会	海技大学校	30

○海事関係団体・海運会社等との意見交換会・懇談会・・・20回

主な相手方
日本船主協会、各地方船員対策連絡協議会、全国内航タンカー海運組合、全日本海員組合 他海事関係団体、海運会社多数

○職員による会社訪問・・・47回、287社（新規開拓100社を含む）

○求人依頼文書発送・・・584社（新規開拓33社を含む）

○内航船乗船体験・・・体験者87名、受入社数48社、受入隻数68隻

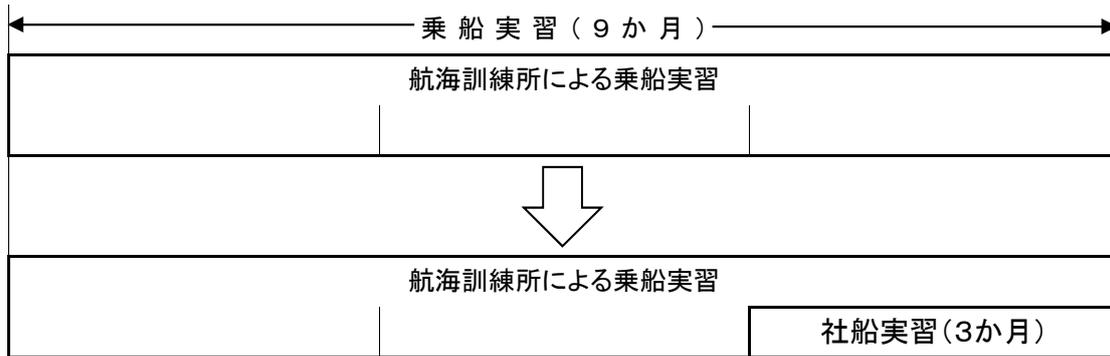
船種	体験者数	受入社数	受入隻数
自動車運搬船	5	2	2
RORO船	31	13	20
貨物船	6	6	6
コンテナ	1	1	2
石灰石運搬船	6	4	4
セメント船	5	3	3
タンカー	30	21	28
タグボート	3	2	3

※同一船舶に複数名乗船しているため、表の受入社数の合計は、実績値と合致しない。

社船実習の実施状況

海上技術学校の生徒、海上技術短期大学の学生に対する**9か月**の乗船実習のうち、**後期3か月**について、内航貨物船等による社船実習を導入

〈船員の確保・育成検討会報告：平成24年3月〉



○平成27年度実績

科別	実施期間	船社数	実習生数
専修科	10月～12月	4社	4名
乗船実習科	7月～9月	5社	13名

○実施後アンケートによる主な回答(抜粋)

実習生	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習船と違って朝早くにS/Bがあったり、掃除など就職して一番最初にする作業が身に付き、社船の雰囲気もわかったのがよかったです。 ・ マンツーマンで教えてもらえるので、短期間で身に付く。
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと作業に参加したい。怪我をするリスクを避けたいのは理解できるが、もっと手を出さないと覚えられないことや理解の浅くなる部分も多い。 ・ 見学が多かったのも、もっと作業をさせてほしかったです。
乗組員	社船実習に参加して良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の現場を肌で感じてもらえるだけでも勉強になっているのではと思う。 ・ 何も知らないで入社するより、船員・船の設備を知って入社してくるので、実習生が不安なく乗ってきて、即戦力になると思うので良かったと思う。
	改善を希望する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船員という職業においては、共同生活が職場環境の一環であるという事を理解させていただきたい。 ・ 甲板部、機関部と交互に入直していましたが、卒業後の希望職種等を踏まえて、どちらか一方を集中して勉強した方が良いのではないかと思います。

各学校の研修の取組

(1) 学校管理運営上必要とされる研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 甲種防火管理新規講習	46名
	・ 著作権セミナー	
	・ 衛生講習会 など	
校内研修 (教育の統一)	・ 小型教習艇操縦練習	61名
	・ 新型ノロウイルスに対する研修	
	・ 体罰に関する研修 など	
計		107名

(2) 教育業務の維持に有用な資格取得のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ ガス溶接技能講習	9名
	・ 玉掛け技能講習	
	・ クレーン運転特別教育 など	

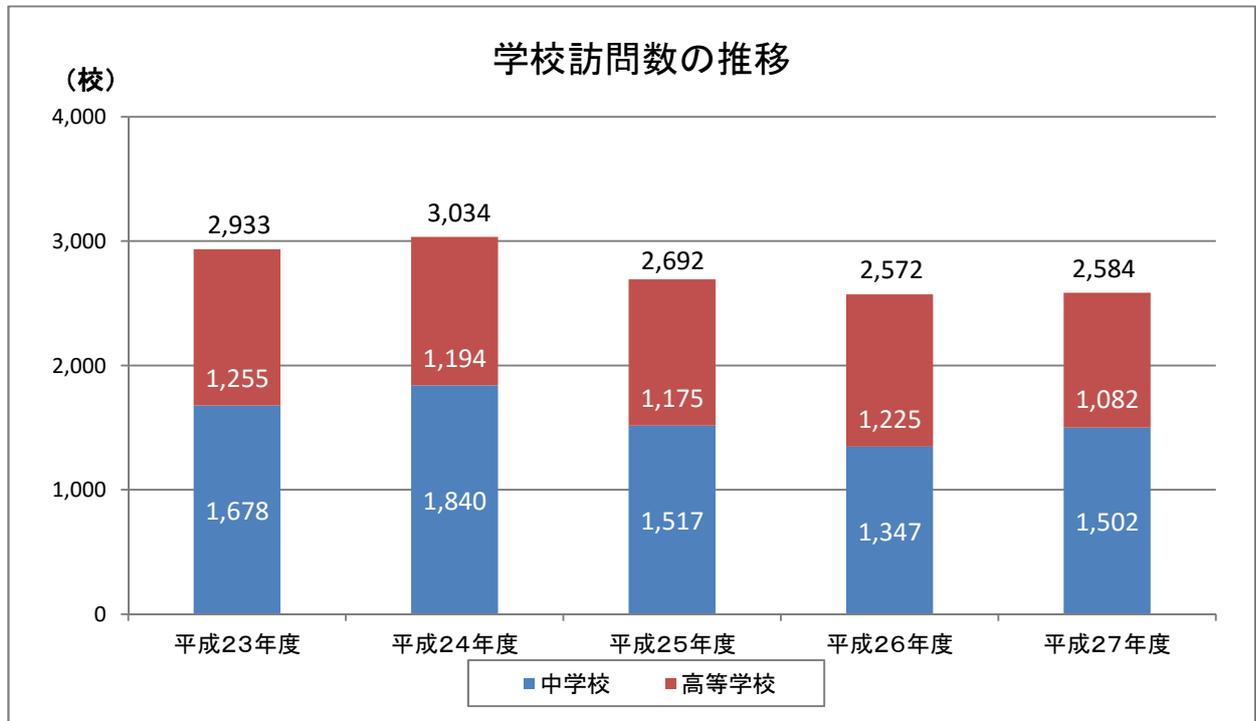
(3) 教員の教育の質の向上のための研修

研修別	主な研修名	受講者数(延べ)
外部研修	・ 油圧基礎研修	32名
	・ 情報モラル教育Ⅱ講座	
	・ 普通救命講習Ⅰ・AED一般普及講習 など	
校内研修 (教育の統一)	・ ロープワーク研修	178名
	・ 校内練習船操船研修	
	・ 機関実技校内研修 など	
計		210名

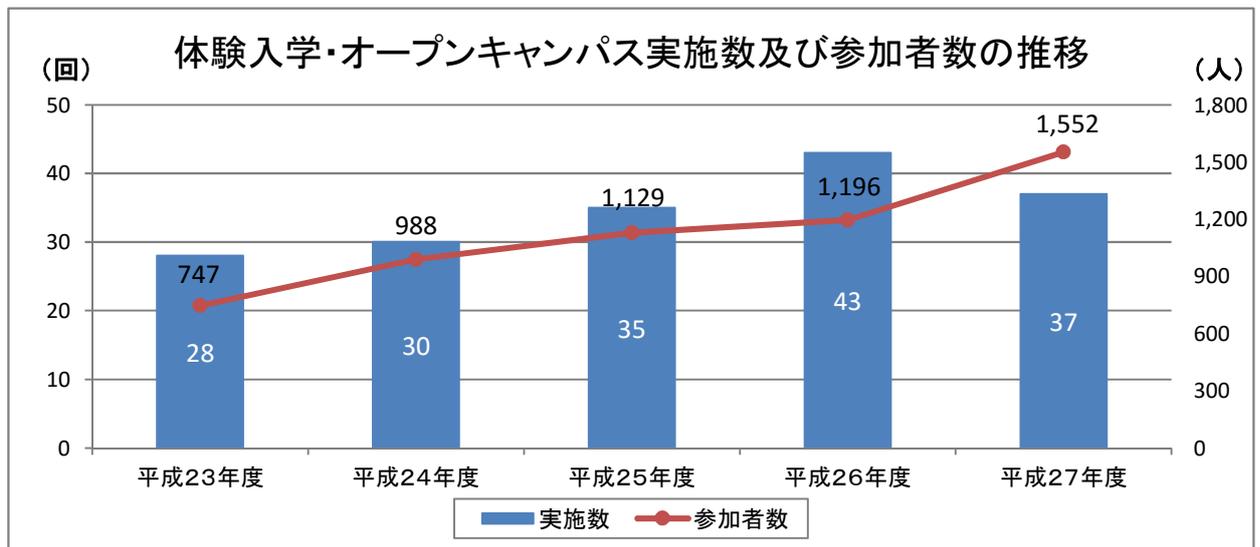
合 計	326名
-----	------

各学校の募集活動に関する取組

○学校訪問



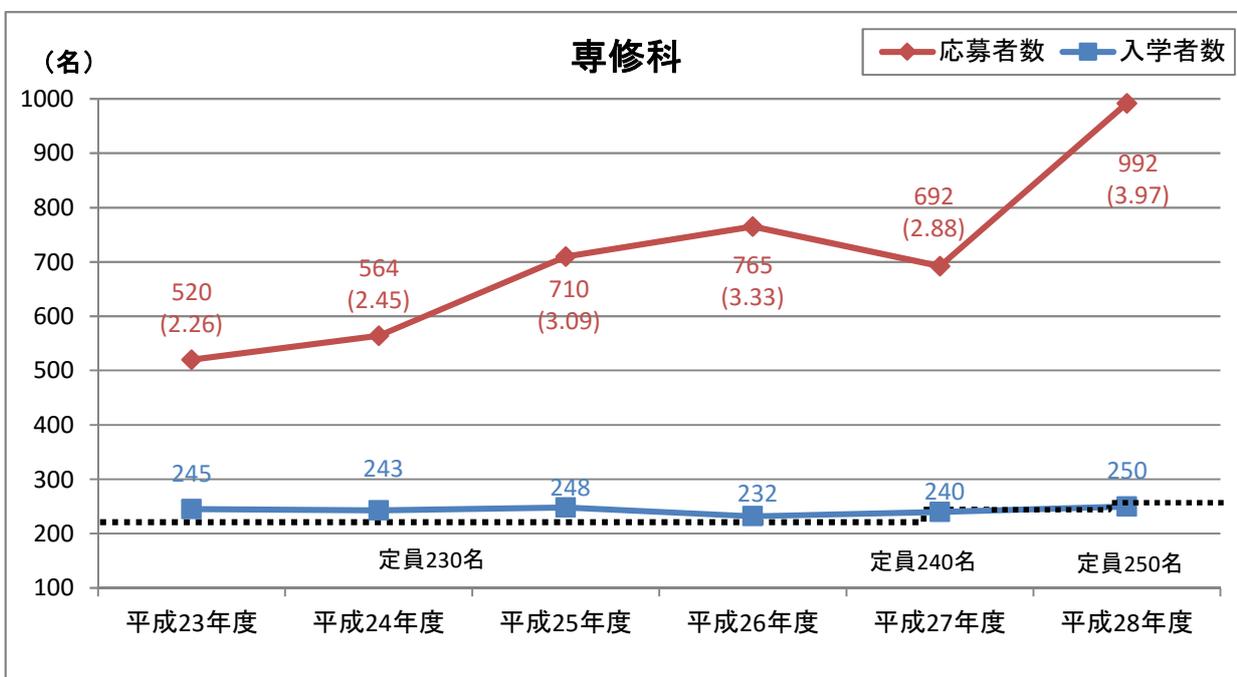
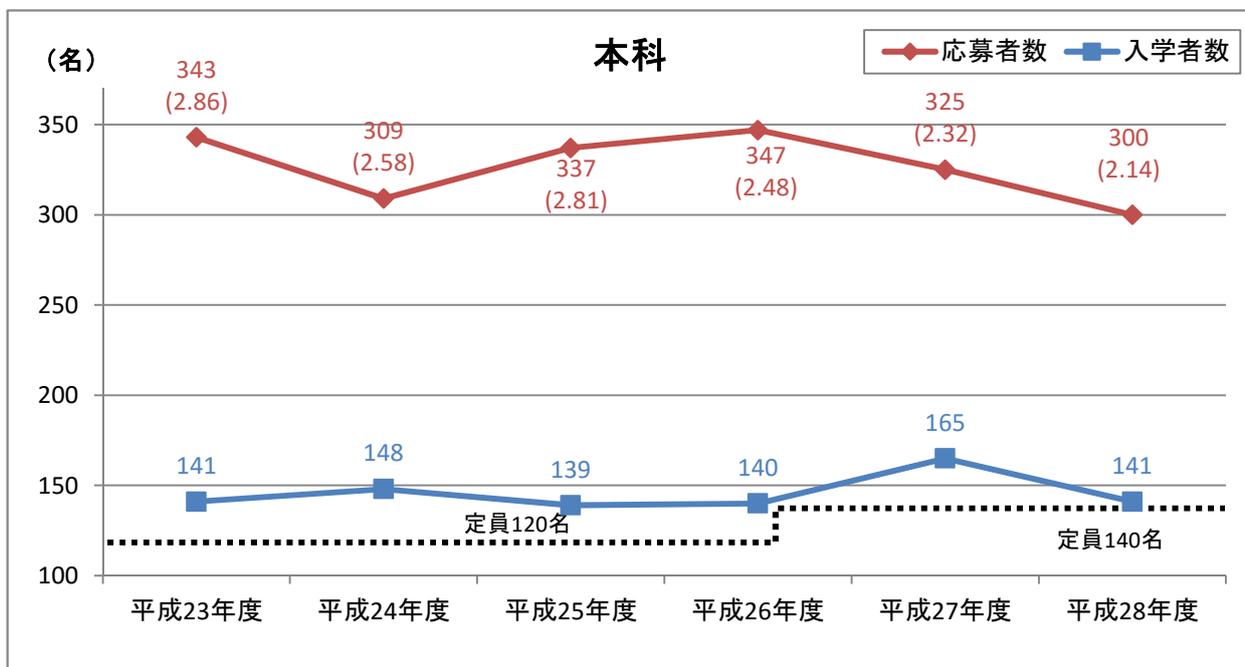
○体験入学・オープンキャンパス



○その他

- ・ 学校説明会への参加: 41回
- ・ 新聞・雑誌・広告等による広報: 359回
- ・ 学校案内等の送付: 延べ28,136箇所

入学応募者数・応募倍率の推移 (平成23年度～平成28年度)



注1) …は定員数である。

注2) ()内は応募倍率である。

研究項目一覧

○国際条約の改正に対応した重点的な研究…2件（内新規：0件）

研究テーマ名	研究期間※
船舶の運航技術の伝承に関する研究	H26.4～H30.3
船舶機関技術の最近の動向と機関士教育・訓練	H26.4～H30.3

○海技教育、船舶運航に関する研究…18件（内新規：10件）

研究テーマ名	研究期間※
航海情報の統合に関する研究	H25.4～H28.3
小型船におけるAIS受信波のマルチパス影響に関する調査研究	H26.4～H28.3
ECDISにおける情報レイヤーのユーザビリティに関する研究	H26.4～H28.3
漁船と動力船の衝突事故に関する一考察	H26.4～H28.3
気液二相流の過渡多次元挙動解明に関する研究	H26.4～H29.3
情報通信システムを利用した離着岸操船支援に関する研究	H26.4～H28.3
霧消散予測に関する基礎研究	H26.4～H28.3
北極海航路の行方	H26.4～H29.3
ECDISを使用した航路監視、他船監視を行う際の実施タスクに関する研究	H27.4～H29.3
船用ボイラ及びプラントにおける機関士教育に関する研究	H27.4～H29.3
ERMの深度化に関する研究	H27.4～H30.3
フルミッション機関室シミュレータの訓練指針に関する研究	H27.4～H30.3
機関室シミュレータへの応用に向けたエンジン性能に関する研究	H27.4～H30.3
深江港における内航船実態調査	H27.4～H28.2
船舶推進動力システムの動特性分析に関する研究	H27.4～H30.3
カメラ画像を利用した船舶認識システムに関する基礎的検討	H27.4～H30.3
船首方位のインテグリティに関する研究	H27.4～H29.3
操船シミュレータ訓練における調査研究	H27.4～H28.3

○授業内容に関する研究…7件（内新規：3件）

研究テーマ名	研究期間※
海事政策と異文化コミュニケーションに関する研究	H26.4～H29.3
太陽電池及び燃料電池システムの船舶電源への導入に関する研究	H26.4～H29.3
フライングロボットの船舶における応用	H26.4～H28.1
船用ボイラの安全性・信頼性向上に関する研究	H26.4～H28.1
通訳訓練を用いた海事英会話習得について	H27.4～H30.3
海政学の再帰的近代化についての一考察	H27.4～H30.3
海洋環境教育における簡易化学分析の有効性について	H27.4～H30.3

※研究期間は、重点研究は4年。一般研究は原則3年以内とする。

研究成果発表一覧

No.	発表タイトル	発表形式	実施日
1	Onboard AIS Reception Performance Advances for a Small Boat	国際学会 講演発表	H27.6
2	Evaluation Method of Training Scenario for Ship Maneuvering Simulator Exercise in BRM Training		H27.9
3	Availability of Navigational Fusion System for Small Domestic Vessels		H27.10
4	船首方位のインテグリティに関する研究		H27.10
5	Current Status and Future Vision of Education and Training with Main Engine Remote Control Simulator		H27.11
6	多眼ステレオカメラを用いた船舶の位置計測に関する基礎的検討	国内学会 講演発表	H27.10
7	実海域における推進動力システムのシミュレーションー風影響の分析ー		H27.10
8	教育機関における蒸気ボイラー海技大学校ー		H27.10
9	低流速の非定常円管内流動非沸騰熱伝達に関する研究		H27.10
10	ECDISにおける情報レイヤーのユーザビリティに関する研究		H27.10
11	多眼ステレオカメラを遠距離三次元位置に関する基礎的検討		H27.11
12	『陰影線』におけるコンラッドの船長初体験と船員教育機関における海技の伝承		H27.11
13	太陽電池と燃料電池を複合したシステムの船舶への導入に関する基礎検討	H27.11	
14	2014年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	研究報告	H27.7
15	ERM訓練の有効性ー構成と訓練プログラムー		H27.9
16	ERM訓練の有効性ーアンケート結果に基づいた検証ー		H27.9
17	Study on the Fusion of Navigation Information toward e-navigation		H27.9
18	海技大学校におけるトレーニング・モチベーションの調査研究について		H27.9
19	ECDISを使用した航路監視、他船監視を行う際の実施タスクに関する研究ー自船位置の確認に関する一考察ー		H28.3
20	カーフェリーにおける航行の安全性評価と改善点の抽出方法		H28.3
21	ERMスキルの効果的な活用に関する研究 第1報: 阻害要因		H28.3
22	機関シミュレータに対応したインストラクター養成に関する研究 第1報: 機関室シミュレータ訓練指針		H28.3
23	海技大学校におけるボイラー・タービン実習内容の検討		H28.3
24	海技大学校のボイラー設備を用いた船員教育訓練プログラムの策定		H28.3
25	漁船と動力船との衝突事故に関する一考察ーIIー ー漁船乗組員へのアンケート結果その2ー		H28.3
26	霧消散予測に関する基礎的研究		H28.3

発表形式	発表実績
査読付学会論文発表・著書	0
国際学会講演発表	5
国内学会講演発表	8
海技大学校研究報告等	13
合計	26

人事交流の実績

事務職員の行政能力向上、教員の指導力向上を図る

◎平成27年度人事交流実績

19名

受入		派遣	
国土交通省海事局	4名	国土交通省海事局	6名
(独)航海訓練所	3名	(独)航海訓練所	3名
国土交通省関東運輸局	1名	三光汽船(株)	2名
計	8名	計	11名

◎第2期中期計画の累計(第2期中期計画の目標:50名)

81名

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		計		合計
	教員	事務員	教員	事務員									
受入	6名	2名	3名	3名	6名	2名	5名	5名	4名	4名	24名	16名	40名
派遣	5名	3名	3名	3名	3名	4名	3名	6名	6名	5名	20名	21名	41名
計	11名	5名	6名	6名	9名	6名	8名	11名	10名	9名	44名	37名	81名